



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/8 (月)	+ 300	+ 5,600	+ 5,900	国庫短期証券発行償還 (3M)	CP等買入 ▲ 300 社債等買入 ▲ 100 国債補充供給 + 22,500		日: 地域経済報告 (さくらレポート、7月) 日: 毎月勤労統計 (5月)
7/9 (火)	+ 1,000	+ 2,000	+ 3,000				日: 日銀「債券市場参加者会合」(銀行・証券) 米: FRB議長、上院銀行委員会で証言
7/10 (水)	トン	▲ 21,000	▲ 21,000	国庫短期証券発行償還 (6M) 国債発行 (5年)	共通担保 ▲ 8,000		日: 日銀「債券市場参加者会合」(バイサイド) 米: FRB議長、下院金融委員会で証言
7/11 (木)	▲ 1,000	▲ 6,000	▲ 7,000				米: CPI (6月) 米: 新規失業保険申請件数 (6日終了週)
7/12 (金)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	源泉税揚げ 国債発行 (20年)			日: 鉱工業生産 (5月) 米: PPI (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1,800億円増加の551兆9,600億円から始まった。その後、税・保険揚げ、国債発行等の要因により、5日は545兆5,300億円(速報)まで減少し越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.077%から始まった。その後もビットサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3M物が0.15%~0.20%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、8日に地域経済報告(さくらレポート)の公表、9日と10日に日銀「債券市場参加者会合」の開催。海外では11日に米CPI(6月)の公表、12日に米PPI(6月)の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.07 ~ 0.078
1M	0.15 ~ 0.20
2M	0.15 ~ 0.30
3M	0.15 ~ 0.30
6M	0.30 ~ 0.50

<レポ>

足許GC取引は週初+0.065%~+0.08%で取引され、輪番オペがオファーされた3日以降は+0.04%~+0.06%が出合いの中心となった。3m短国の発行があった週末は引けにかけて+0.08%近辺まで上昇した。

SC取引は2年438~462回債、5年149~169回債、10年350~375回債、20年180~188回債、30年65~83回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.030 ~ 0.050
CP 3M	0.10 ~ 0.25

<CP>

今週の入札発行総額は約6,300億円で、週間償還額の3,600億円を上回った。発行残高は先週末時点の23兆1,053億円から7月4日時点で24兆3,680億円に増加した。発行市場は鉄鋼、石油製品、電気機器、電気業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で0.1%台前半から0.25%近辺での出合いであった。

来週の償還額は、約1兆2,700億円となっている。発行市場は、6月末で残高を減少させた発行体の案件が見込まれる。発行レートは、7月30・31日に開催される日銀金融政策決定会合への警戒感から、これを越える発行案件の出合いは0.10%台前半から上昇していくと予想する。また、3M超の案件については0.30%前後の出合いも散見されるであろう。

11日にCP等買入れオペが3,000億円でオファーされる予定となっている。8月からCP等買入れオペの日程が3,000億円/回を月2回から、4,000億円/回を月1回予定へと変更になった。

<TDB>

5日の3M(1241回債)の入札は、最高落札利回り0.0080%(前回債0.0200%)、平均落札利回り0.0032%(前回債0.0160%)となった。来週の入札は、9日に6M、12日に3Mが予定されている。